

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 犬飼 裕一

研究課題		社会学思想の展開と自己言及社会：理論社会学のさらなる展開
報告の概要	研究目的 および 研究概要	19・20世紀に発する社会学理論の展開を学説史として研究する一方で、21世紀における新たな社会観をいち早く提示することを目的とする。研究概要としては、理論社会学のさらなる展開を目指していくなかで、新たな研究領域として人工知能(AI)が知識世界に与える影響を視野に入れつつある。研究成果の公表は、共通したテーマをめぐる相互に関連し合った個別論文を順次発表していく形をとり、それらを修正して単著として刊行することを一つの目標とする。
	研究の結果	本年度の研究においては二つの大きな展開があった。一つは20世紀歴史哲学思想と社会学理論の内的な関連という問題を検討し、論文「社会にとって歴史とは何か?—E・H・カー『歴史とは何か』を社会学理論から読む—」を発表した。この論文は印刷中の続編「自己言及性の歴史知と社会学—E・H・カー『歴史とは何か』を社会学理論から読む2—」とともに、歴史学と社会学の間の同時代的呼応関係や対抗関係を追う中で、筆者が長く取り組んできた自己言及性の問題に理論的に結びつけている。もう一つは、哲学者カール・ポパーの三世界論に触発されて、「世界3としての社会」という新しい社会像を提案するものである。今後の理論展開の綱領的な論文として「世界3と社会学—カール・R・ポパーと新しい社会像の可能性—」を発表した。これは目下計画している「世界3としての社会」関連の諸論文を予告するものでもある。そこで視野に入れているのが「世界3としての人工知能」というテーマである。
	研究の考察・反省	カー『歴史とは何か』を手掛かりにして行ってきた歴史哲学と社会学理論の関係をめぐる研究は、一応一段落し、本年度の後半からは上記の「世界3としての社会」の問題に集中的に取り組んでいる。前者の研究が比較的著名な文献についての関連領域からの言及の多い研究であったのに対し、後者の研究は世界的にも未知の理論探求を目指しており、そこからさらに未知の研究領域である人工知能を社会学理論的に理解しようとしている。逆に言えば、人工知能を社会学的に説明するための理論枠組みとしてポパーの三世界論を援用しながら全く新たな社会像を構築しようとしている。こういった他分野にまたがる研究にありがちな問題点として、他分野の既存の研究業績について知識が不足している場合が十分に考えられる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>単著論文「社会にとって歴史とは何か?—E・H・カー『歴史とは何か』を社会学理論から読む—」、『研究紀要』(日本大学文理学部人文科学研究所)、第98号、2019年9月30日</p> <p>単著論文「自己言及性の歴史知と社会学—E・H・カー『歴史とは何か』を社会学理論から読む2—」、『研究紀要』(日本大学文理学部人文科学研究所)、第99号、2020年2月29日</p> <p>単著論文「世界3と社会学—カール・R・ポパーと新しい社会像の可能性—」、『社会学論叢』(日本大学社会学会)、第196号、2019年12月25日</p>